

津島市「祭りを学ぶⅣ」体験報告

7月21日（土）

1年生国際理解コース有志

今年度の津島市教育委員会主催の「祭りを学ぶⅣ」に参加しました。

7月21日（土）には、狂言「千鳥」の上演会が愛西市佐織公民館で行われました。

国際理解コースに所属する4人の生徒は、ボランティアとして、狂言を鑑賞するイベントの運営のお手伝いをすると同時に、本人たちも狂言を鑑賞しました。当日は300名近くの一般来場者があり、チケットの受け取りや座席の案内などの仕事を、ボランティアとして他の役割の方と協力して行いました。



物語の中に天王祭が出てくる狂言「千鳥」を鑑賞する前後で、名古屋大学の林教授より天王祭りや狂言の歴史についての御講演を聞きました。改めて狂言などの日本の伝統文化の歴史の深みに触れるとともに、天王祭がかつて日本中に知られていた祭であったことを実感することができました。

狂言を鑑賞した後は、地元の小学生とともに天王祭に関わる「お囃子体験」と「花つけ体験」に参加しました。



今回のイベントに参加した生徒らは、「普段はテレビなどでしか見ることがない狂言も、間近で見ると迫力があり、楽しむことができた。」「自分が想像していた以上に、天王祭りの歴史は長いことを知って感動した。」など、地元や日本に根付く伝統的な文化について、より関心を深めることができた一日となったようでした。

今回は残念ながら、台風接近のため7月29日（日）に津島市の「わざ・語り・伝承の館」で行われる予定の行事に参加することができませんでした。



次年度、海外研修に参加する予定の生徒にとって、地元の伝統文化に触れる貴重な機会を逃す結果になりましたが、国際理解コースの生徒全員がまとめて体験を希望したことは、彼らの国際理解に対する積極性の表れであり、今後もチャンスがあればいろいろな機会を彼らに勧めていきたいと感じました。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。